

# かささぎ

通信 第103号

毎月第2金曜日 13:30~15:30

2021年 5月 14日 発行

刈谷市中央図書館研修室 参加自由

森三郎刈谷市民の会「森三郎の作品を読む会」

二〇二一年四月の「森三郎の作品を読む会」では『森三郎童話選集夜長物語』(1996、刈谷市教育委員会)所収の「山のあなた」を読みました。

「山のあなた」は一九四九(昭和24)年二月刊行の『幼年童話集 帽子に化けたクロネコ』に発表された童話です。この作品集は戦後初めて刊行されたもので、続いて三月には『三年生の童話 お話の泉』(東京一陽社長野分室)が刊行されています。森三郎が刈谷を拠点に活発な創作活動を再開していることが分かります。

『幼年童話集 帽子に化けたクロネコ』には十六作が収められています。『森三郎童話選集 かささぎ物語』(刈谷市教育委員会、一九九五)に表題作はじめ三作、『同 夜長物語』(刈谷市教育委員会、一九九六)に「春告鳥」と「山のあなた」が入っています。この二作はどちらも「生きる」ことについて「神」の存在を通して描いています。

「山のあなた」は、与えられた人生を受け入れるか、別の人生を歩むか、その二つの生き方を行ったり来たりするある国のお姫様のことを描いています。茜姫は隣国の縁之介という病弱でわがままだという若殿に嫁入りすることになっていきますが、それがいやで困っています。その時、昔祖母が茜姫の行末を案じて身代りに埋めた人形が現れて、自分のことを姫に伝え、姫の身代りになると申し出ます。姫は牛飼いののおかみさんになるという運命を指し示され、「そこには私の知らない幸福があるような気がする」と喜んで牛飼いの妻になります。しかし一年後、マンドリンを弾きながら「山のあなた」の歌ばかり歌っている牛飼いと生活に飽きて、人形と立場を変えてもらいます。けれど茜姫はそれにも飽き足らず、何度も牛飼いののおかみさんになったり、奥方になったりします。しかしとうとう人形は「縁之介様の子を宿したからもう牛飼いの妻にはなれない、私は自由を得た」と茜姫に伝えます。

ところが、病気一つしたこと無かった牛飼いが突然の病で亡くなります。一人になった姫は牛飼いの残したマンドリンを抱えて

山のあなたの空遠く／「幸ひ」住むと人のいう／

ああ われひとと尋(と)めゆきて／涙さしぐみかへりきぬ／と歌うしかありません。「山のあなた」という題名は上田敏訳のカル・ブッセの詩『海潮音』所収)から採っていたことが分かります。姫の胸には、かつて「ほんとうの幸福はわがままを殺したところから生まれるのです」と語りかける亡き祖母の声が何度も響きましたが、その時には姫には理解できませんでした。そして今や「人形」の身になって、「山のあなた」の歌を歌いながら世の中を回るようになりました。

複雑な構成と、神との関わりで幸福について表現するなど、なかなか難しい話で、一回読んだだけでは分かりにくい話でした。一九四五年に東京大空襲で被害に遭い、刈谷に戻っていた森三郎さんは、もう一度東京に出て執筆活動ができるかを、兄事していた柴田宵曲氏に相談していた時期があると、ご長女の保澤やす子さんから伺ったことがあります。戦争の混乱の中で、自分の意志とは違ふところで運命が変わっていった苦悩が、この「山のあなた」にも表現されているような気がします。

## 「第八回(2021)森三郎に親しむ集い」開催のお知らせ

日時 6月6日(日)午後 一時半〜二時四十五分

会場 刈谷市中央図書館 大会議室(3階)

内容 朗読 森三郎「とんび凧」(初出『赤い鳥』1934.12)

発表 「スライドで見る 十代後半の森三郎

―川上児童楽劇園時代―

紙芝居 「馬方八五郎」(初出『赤い鳥』1933.4)

お願い 入館時の手指の消毒、マスク着用、一〜二m間隔をとる、左右前席空けて着席、大声を控える 等の感染症対策に心がけて開催したいと思います。

次回「森三郎の作品を読む会」の作品(二〇二一年六月十一日実施予定)『赤い鳥』の中の「昔の笑話」(一九三二年九月号)